



にほしま

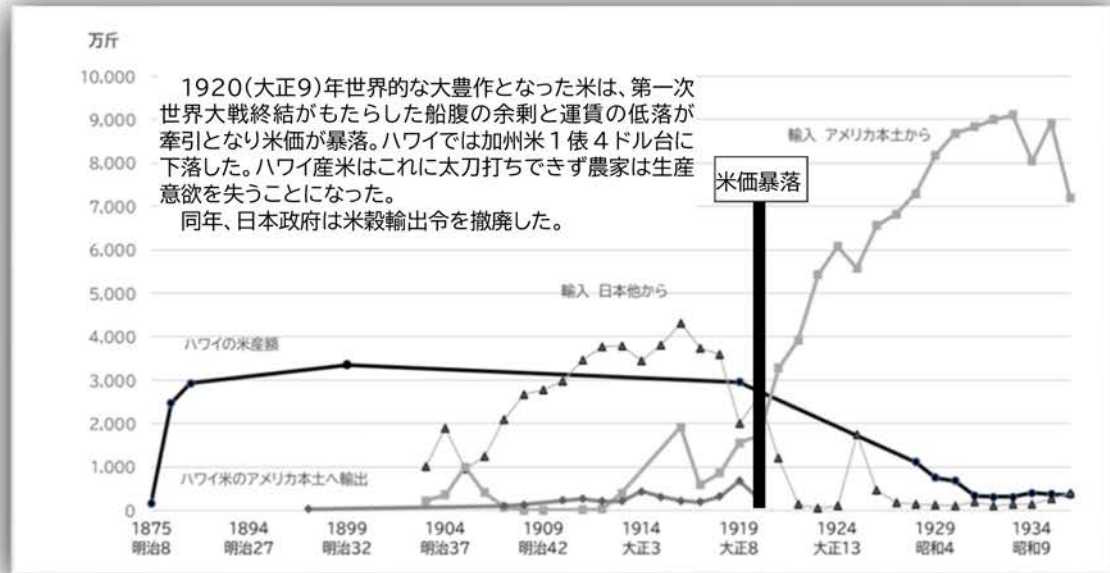
その昔、ホノルルは水田だった

ハワイ米物語



当館蔵

遥か彼方のハワイから日本へ、暑中見舞
移民は常に日本を想つ



精米所を作った男、木村齋次

第1回官約移民の木村齋次は、渡航中の船内で中山譲治に見出され移民監督官に抜擢。そのままハワイ島に直行、7年間駐在した。

ハワイ島では、ヒロ本願寺説教所の設立、移民救済病院の開設など職務を離れて移民の福祉向上に尽力した。
1893(明治26)年職を辞し、ホノルルで日本から米・酒・食料品・雑貨類を輸入販売する木村商店を開業。
なかでも米は食生活を支える必需品であったが、当時日本米は高価で贅沢品。木村は関税の不合理に着目「玄米はいわば未加工製品であり、白米と関税が同一であることは不合理」としてハワイ政府に直談判、白米より1ドル安い1俵1ドル50セントに減額させた。日本のうまい米を誰でも買える安い金額にという木村の次の目標は、自社の精米所を持つことであった。

翌年、数千ドルの資金を投入してホノルルに大規模精米工場を建設、他店が輸入する玄米の精米も引受け、白米の大量供給を可能にした。その結果、1俵8ドルの米が5ドル台に低下、人々は食費が下がり自身も大きな利潤を手にすることができた。

1905(明治38)年、株式会社木村商会に改組、同年帰国。1913(大正2)年東京にて逝去。65歳。
在留日本人は、同氏の業績をたたえ、モイリリに記念碑を建立した。長崎県大浦出身。



1934-1941(昭和9-16)年頃の ホノルルの精米所 専売特許中野式粉米機3台;粉米能力 85俵 資料④

日本からの米の輸入は玄米であった。
その理由は、輸送中の温度差、長期間の保存にも品質を保つことができ味覚が劣えず、輸入関税も白米より1ドル安い1俵1ドル50セントであったことによる。精米所の出現は必然であった。



やまと新聞 1903(明治36)年 資料②



やまと新聞 1906(明治39)年 資料③

日本から輸入

※支那という呼称は、当時使用されていたものです。

発刊 語り継ぐ移民の歴史



A4判 247頁 定価3,800円(税抜)
Amazon で注文できます

「移民は棄民ではありません」
「貧乏だから移民したわけではありません」
あくまでも史実に基づき刻明に記述しました。
ぜひ、一読下さい。

1885(明治18)年から始まったわが国とハワイ王国との移民契約。

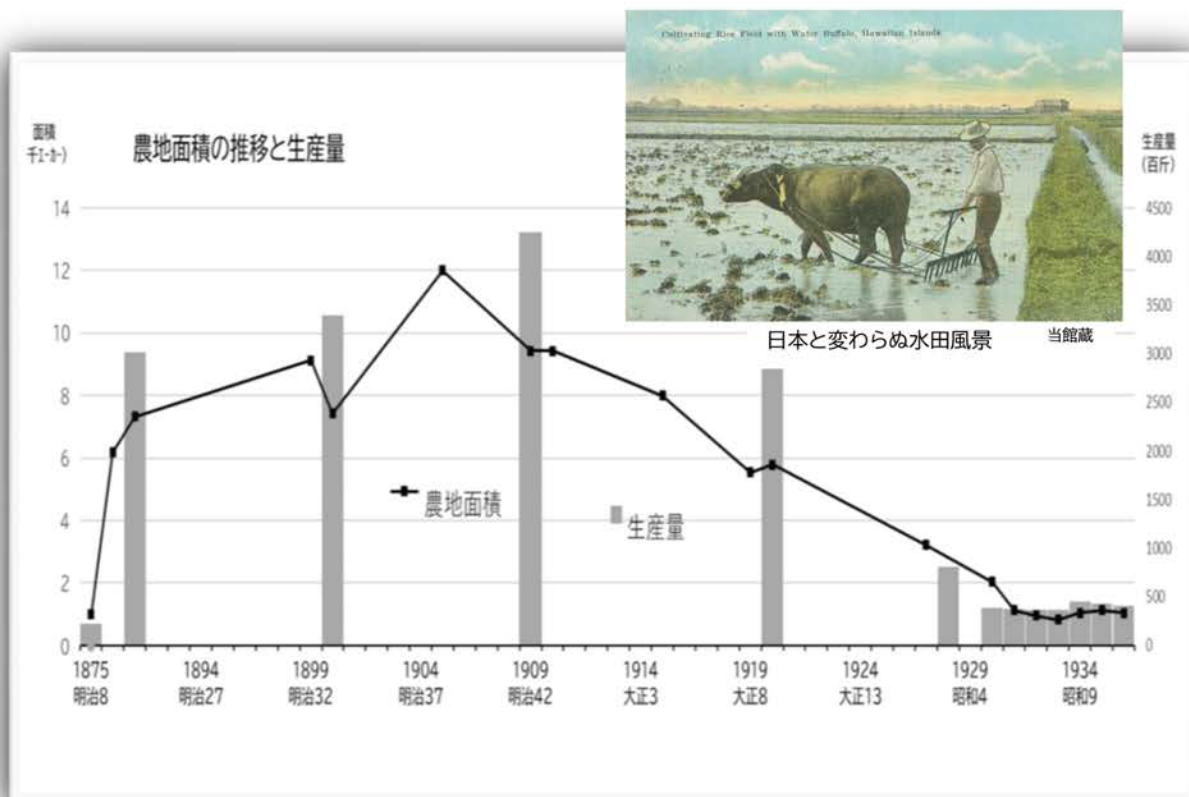
渡航費用・住居・治療費・炊事用薪炭無料の他に、3年間人頭税を免除するという好条件であった。中でも白米は5セント以下で支給、3度の飯に白米が腹いっぱい食べられるとあって移民たちはたとえようもなく喜んだ。

やがて生活が落ち着くにつれて、支給される米がパサパサ冷めたらまずいと不満が出てきた。ならば日本の米を作ろうと水田栽培に乗り出したものの、栽培条件の良いところは全て先行移民の支那人が占め、その上組合を作って団結。日本人が参入する余地はなかった。
それでも旨い米が食べたい、その一心から残された悪条件の土地を水田に改良、時間をかけて徐々に耕作面積を増やしていった。努力は実り、ついには支那人を抜いて日本人が米作の中心に躍り出た。

ところが、将来は前途洋々と見えた米作りは、アメリカ本土カリフォルニア米という手強い相手が現れて――。

ハワイの米作り

ハワイにおける米作の全盛期は1900～10年代でカウアイ島が生産の拠点となった。1915(大正4)年以降から日本人が生産者の大半を占めた。



統計の数値は出典により違いがみられ、グラフは全体像を把握することを狙いとして作成した。

米の生産にかかる収支費

1930~31(昭和5~6)年

プラウ労働(9人役・旧1.5ドル)	13.50	ドル
田植労働 9人役	13.50	
田草取 7人役	10.50	
畔草刈その他 5人役	7.50	
稲刈り 12人役	10.50	
鳥追い 7人役	18.00	
前項労働者食料費 49人役	25.00	
肥料代ボーンミール 5俵	17.00	
馬糧	7.00	
雑費	5.00	
精米・精米までの運搬費 1俵43セント	15.05	
借地料・税金	30.00	
合計 172ドル55セント		
1俵100斤あたりの原価	4.93	ドル

米の主要産地となったカウアイ島の統計

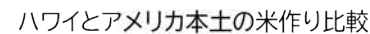
1932-33(昭和7-8)年 日布時事布哇年鑑

西部地区ワイメア・ハナベペ・ナヴリヴェリ		7～80エーカー	
東部地区ハナレイ・コオラウ・アナホフ・ワイルアとカピア			
	日本人	支那人	1,451エーカー
耕作面積	890	461	
耕作農家戸数	92	22	



布哇通信

ハワイやアメリカでも米を作っています。
 ハワイ(アメリカ)米は東京では2等米くらいです。
 ハワイでは2年間で4~5回収穫できます。



1937(昭和14)年 日布時事布哇年鑑

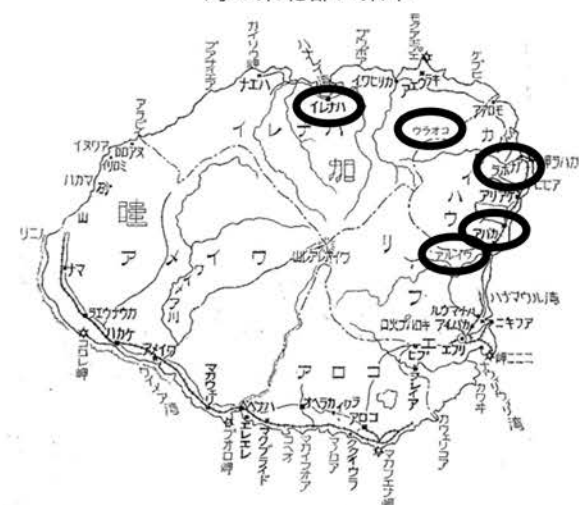
	カウアイ	カリフォルニア (バツテ郡)
農地の形態	借地 ほぼ100%	借地 2/3 地主 1/3
農園の規模(エーカー)	10.30	154.00
収穫量/エーカー(袋)	23.20	35.80
労力費/エーカー(ドル)	85.57	12.22
原料費/エーカー(ドル)	18.52	11.12
総生産費/エーカー(ドル)	143.70	39.48
収入/エーカー(ドル)	131.43	53.26
比較損益/エーカー(ドル)	△12.31	13.78

植え付けと収穫

	植え付け時期	収穫時期	育成期間
支那米	3月中旬	8月中旬	150日
日本米	6月中旬	9月中旬	120日

ISLAND OF KAUAI

カウアイ島の米所
島の東北部に集中



日布時事1919(大正8)年資料①



布哇日本人年鑑第10回
布哇新報社

資料①1919.02.27 Nippu Jiji, Hoover Institution Archives.<https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/tui19190227-01.1.4>
資料②1903.06.18 Yamato Shinbun, Hoover Institution Archives.<https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/yms19030618-01.1.1>
資料③1906.03.07 Yamato Shinbun, Hoover Institution Archives.<https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/yms19060307-01.1.3>
資料④1934-1941 Rice Mill Factory, nippujiji, Hoover Institution Archives.<https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/AS-SH937-007.1.1>